

Q&A

◆男女共同参画ってなに？◆

性別にかかわらず、すべての人が自らの意思により、社会のあらゆる分野における活動に参画し、個性と能力を十分に発揮する機会が確保され、共に責任を担うことをいいます。

－ 名張市男女共同参画推進条例より

◆男女共同参画はどうして必要？◆

過疎化や少子・高齢化、景気の低迷や価値観の多様化など、私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。これらの変化に対応し、一人ひとりの生活を守りながら社会全体の活力を維持していくために、男性も女性もそれぞれが持っている個性や能力を十分に活かせる社会の実現が求められています。そこで、男女があらゆる分野に共に参画していく『男女共同参画』の必要性が高まっています。

◆男女共同参画は「男らしさ」や「女らしさ」を否定するもの？◆

時代が変わり、社会の情勢が変わることで、捉え方に多少の変化が生じることがあったとしても、男女の性別から出てくる区別（「男らしさ」「女らしさ」）は否定できるものではありません。

そもそも男女共同参画は、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」と決めつけることで、個人の生き方の選択肢を狭めてしまうような決まりを押しつけないこと、そして社会や家庭、地域活動などさまざまな面にあった男女の不平等をなくしていくものです。

ですから、一人ひとりがそれぞれの性別と持ち味を大切に生きていくことを否定するものではありません。

◆伝統や文化を否定し、市民の意識を変化させようとしているの？◆

長い歴史をかけて培われてきた性別による役割分担意識は簡単に変わるものではありませんし、また、すべてを解消すべきというわけでもないでしょう。男女共同参画は個人のニーズや生きがいにも十分に配慮し、男女がともに尊重し合い、さまざまな場面で個性や能力を発揮できる社会の実現を目指しています。一人ひとりが自らの意思により能力を発揮しようとするときに、それを阻む固定観念を変えていこうとするもので、例えば伝統や日本人という民俗が持つ性質のようなものまで解消しようとするものではありません。

◆女性を家庭の外に引っ張り出そうとしているの？◆

男女共同参画は大前提として一人ひとりの生き方が尊重される社会の実現を目指すものです。ですから、すべての女性をむやみに家庭の外に引っ張り出そうとするものではありません。ただ、15歳から64歳までの生産年齢人口が減少している社会において、高齢者を支え、就業者一人あたりの税金や社会保険料の負担を軽減させていこうとすれば、女性や元気な高齢者の就業率を高めていくことも大切です。

そういった点からも、意欲ある女性があらゆる分野に参画し、持てる能力を活かす機会が確保されるよう、支援していくことも必要です。

◆働く女性が増えると少子化が進むのでは？◆

働く女性の増加と少子化に直接の因果関係がないことを示す調査を紹介します。

1. 諸国を見渡すと、25歳から34歳の女性の就業率が高い国ほど出生率も高くなる傾向にあります。
2. 国内においては、子育て期にあたる30歳から39歳の女性が働いている割合の高い県の方がむしろ出生率が高くなっています。
3. 「望ましい生殖と出産に関する研究会」が平成14年に行った調査によると、実際に生み育てている子どもの数は、働く母親が1.98人であるのに対し、専業主婦は1.91人と働く女性のほうがやや高くなっています。

「また、平成21年に行った「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査」によると、理想の子どもの数より少ない理由として「経済的負担が増えるから」「仕事と子育ての両立が困難だから」「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が多くあげられています。」景気の低迷などから収入が減っている状況下、共働き家庭の方がどちらかという経済的に子育てをしやすい立場にあると言えるようです。

◆女性の社会進出ばかり強調すると、家にいて家事・育児に専念する人には肩身が狭い思いにさせてしまうのでは？◆

男女共同参画は、個人のあり方・生き方を軽視したり否定するものでなく個人の思いを尊重できる社会をめざしています。個人や家族の役割りを他人や社会から男女の性別を理由として固定的に決めつけられるのではなくそれぞれの個人・家族が主体的に考えていけばよいという考えであり、主体的に検討した結果、専業主婦を選ばれても、仕事を選ばれても、さらに仕事と家庭の両立をめざされてもいずれもが尊重されるべきであると考えます。

◆子どもが小さいうちは母親が子育てに専念する方がよいのでは？◆

国立精神・神経センター精神保健研究所が16年間にわたる追跡調査で確かめたところによると、3歳になるまでに母親が家の外へ働きに出ても、子の発達に悪い影響を与えないということです。また、子どもの衝動的・行動的な問題行動は5歳までなら、幼児期に母親が働いていた方が少ないとの結果が出ています。幼児期の母の就労が子の問題行動をむしろ押さえるよう作用するのは「子育てに多くの人がかかわる『開かれた育児』が、ルールを学ぶ機会を子どもに与えるのではないか」との説もあります。

「乳幼児の母親は育児に専念すべき」という考え方は、子育ての悩みを誰にも相談できずストレスを溜め込んでしまう母親を増やし、社会との関わりを持たない孤独な育児に母親を追い込んでしまいかねません。それに、「子育ては母親が行うべき」という考え方は、子育てに男性が関わっているチャンスを狭めてしまうものです。

男女共同参画が目指しているのは、両親が共に子育て責任を果たし、それを基本として公的なサービスや地域社会、企業による支援など、さまざまな支援のなかで子どもが育まれる社会づくりです。

◆男女共同参画は成人男女を対象としているの？◆

男女共同参画社会は決して成人男女のみが活動しやすい社会ということではなく、すべての男女が年齢に関係なく生きがいをもって暮らせる、いわば老若男女共同参画社会であり、子どもや高齢者にも配慮したものであるべきだと思います。

◆仕事と生活の調和〔ワークライフ・バランス〕とはどのような意味ですか？◆

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について自ら希望するバランスで展開できる状態です。このことは、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらし、多様に富んだ活力ある社会を創出する基盤として極めて重要です。人生の段階に応じて自ら希望する「バランス」を決めることで仕事の効率が高まり、時間的な余裕が生まれ個人の生活の充実につながります。このように仕事の充実と仕事以外の生活の充実の好循環がもたらされます。